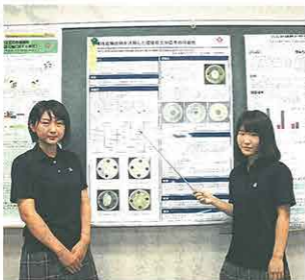


ポスターで発表した山梨英和高2年の新谷柚月さん（左）と中川果穂さん



## 山梨英和中・高 自然科学部



山梨英和中・高自然科学部は中学生10人、高校生25人の計35人が活動している。部員はダニ班、外来種班など、それぞれが興味関心を寄せる分野ごとにグループを編成。週4日の活動に加え、土日も調査・研究に励んでいる。

ダニ班は「富士山北麓のササラダニ群集の多様性評価」や、「八ヶ岳南麓と富士山北麓のササラダニ群集」。外来種班は「Q&A形式利用による小・中学生の外来植物（主に富士山麓・山梨県）に対する意識高揚に関する研究」といったテーマを、全国の研究者らが集う学会などで発表した。

部員で同高2年の新谷柚月さんと中川果穂さんは、「環境科学会2017年会」で「優秀発表賞」に輝いた。受賞研究は「調理残渣抽出物を活用した環境保全型農業の可能性」。タマネギやニンニクに含まれる抗菌作用がある物質「アリシン」に着目し、人体や環境に害のない農作物の病原菌対策を考えた。

新谷さんは「菌の培養が特に難しかった」という。発表ではポスターを使い、日頃の授業などで培ったプレゼンテーションの技能を発揮。あらかじめ原稿を作らず、臨機応変に説明した。中川さんは「専門用語が多く、万人に分かりやすいように説明することが難しかった」と語る。

部長の保坂百美さん（2年）は「賞はこれまでの成果の証しで励みになる」といい、「自分たちが関心を持つ分野について、これからも追求を続けたい」と話している。

（渡辺真希）

関心寄せる分野に没頭 ■ 学会発表での受賞励み



自然科学部のメンバー

＝いずれも山梨英和中・高